

1964年（昭和39年） どんな時代？

人口

推計人口（10月1日）	9,718万人
合計特殊出生率	2.03
65歳以上人口割合	6.2%
平均寿命	男 67.67歳・女 72.87歳



◀ 4～5ページの写真を
撮影したカメラ

家計（二人以上の勤労者世帯）

世帯収入（月額）	58,217円
貯蓄額	56万円

物価（価格は東京都区部の年平均小売価格）

バナナ 1kg	228円
中華そば（外食）	59.4円
新聞代 1ヵ月	450円
映画観覧料 大人観覧料	221円
郵便料 封書	10円
郵便料 はがき	5円
テレビ 1台（モノクロ16型）	55,500円
カメラ 1台（フィルムタイプ35mm）	17,900円

※総務省統計局「東京オリンピック時（1964年）と現在（2014年）の日本の状況」より

～聖火リレーの思い出を再び～

1964年オリンピック聖火リレー ユニフォーム・トーチ展

56年前の聖火ランナーが実際に着用したユニフォームやトーチを当時の聖火リレーの写真とともに公開します。この機会にぜひご覧ください。

▶ はにぼんプラザ会場

期間 2月18日(火)～2月24日(休)

時間 午前9時～午後10時

▶ セルディ会場

期間 2月26日(水)～3月3日(火)

時間 午前9時～午後9時30分

▶ 本庄市役所会場

期間 3月5日(木)～3月17日(火)（土・日除く）

時間 午前8時30分～午後5時15分



第4区間 御堂坂下から国道17号へ
(国の出四丁目交差点付近)

オリンピック聖火リレー

オリンピック聖火リレーは、古代オリンピックのおこなわれたギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎をギリシャ国内と開催国内でリレーによって開会式までつなげるものです。

1964年の東京オリンピックの聖火は、鹿児島、宮崎、北海道へ運ばれました。北海道からのものは、青森へ渡り日本海側と太平洋側に分かれ、全4コースでリレーされました。

本庄市を通過したのは、第3コースで、日本海側を経由し、10月6日、群馬県高崎市の新町から上里町に引き継がれ、本庄市、深谷市と走り抜けました。そして、翌7日、戸田市から東京都へ引き継がれました。



56年前の聖火リレー

貴重な体験をさせてもらった

今でも忘れられない

「56年経ったけど、そんな感じはしない。それだけ印象が強かったのかな」と話してくれたのは、1964年に実施されたオリンピック聖火リレーで、本庄市の第4区間をトーチを持ち先頭を走る正走者として走った堀田在住の高柳章昭さん。

高柳さんは、当時19歳で青年団に加入していました。「青年団で1区間走ることにになり、年齢条件やスポーツをやっていたことなどもあって正走者として走らせてもらえることになった」とのこと。当時の聖火リレー走者の条件は、16～20歳の年齢条件があり、本庄市内の走者は主に高校生と中学生で構成されました。

当日の様子をうかがうと「夢中で走ったんだろうね。中継所

にたくさんの観衆がいたのはよく覚えている。もちろん沿道にもたくさん観衆がいたと思うけど、あまり覚えていないんだよね」と、そして「第4区は、女性や中学生もいたので、とにかく練習通りのペースで走ること集中していた」と当時のことを最近のことのように話す高柳さん。当日に向け、青年団の仲間たちと、定期的に集まり、体で走るペースを覚えるまで練習を重ねたとのこと。そして、高柳さんは、聖火リレーを共に走ったその仲間と今でもオリンピック開催の年ごとに再会し、交流を深めているそうです。

聖火が再び本庄市にやってくることにについて訊ねると「今回は気楽に楽しむことができるよ」と笑顔で話してくれました。



第4区 正走者
高柳 章昭 さん



沿道からの声援を受けながら走り抜けた高柳さん

1964年 本庄市の聖火リレーQ&A

- Q どのような隊列だった？
A 聖火トーチを持って先頭を走る正走者1名と、副走者2名、伴走者20名で隊列が組まれ、その前後を白バイや車両が連なり行われました。
- Q どんなコースだった？
A 本庄市内では4区間に分られました。
第1区 万年寺～小島、 第2区 小島～駅通り
第3区 駅通り～御堂坂下、第4区 御堂坂下～一の橋
- Q どんな方が走った？
A 正走者や副走者は、市内の高校生や青年団の方が走りました。また、伴走者には、中学生も走りました。